

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 平成30年11月1日発行（第7号）

平成30年度地区別学力向上研修会の開催

先月、10月11日（木）県西生涯学習センターで「平成30年度地区別学力向上研修会」を開催いたしました。各校の教頭を対象とし、「教頭としての取組」というテーマのもと実践発表、グループ協議、そして講話が行われました。本研修は、学力向上に向けた校内の組織・体制について見直す機会となりました。



【実践発表】 五霞町立五霞中学校 飯塚 敏夫 教頭先生より 「全教科・全領域・全職員で取り組む学力向上の工夫と実践」

国語科の授業力ブラッシュアップ研修授業発表会の実践を基に、協働的な学びの視点に立った授業改善の手立ての共有と校内研修体制の強化の2つの柱を中心に、全職員で学力向上に取り組んでいます。

学力向上のキーワード！



全職員 授業改善の手立ての共有
校内研修体制の強化



【グループ協議】 今後の学力向上に向けて、自校の取組を見直し「いつまでに、何を行うか」具体的に施策を決めることができました。ぜひ来年度の学校改善プランに生かしていただきたいと思えます。

【学力向上に向けた取組例】

- ・関係職員と連携した校内研修の充実と時間の確保
- ・授業スタイルの確立
- ・各種訪問を生かした校内研修体制の見直し
- ・相互授業参観のコーディネート
- ・組織的なチェック体制の確立
- ・学力アップ問題や各種事業を活用した授業改善 等

学力向上のキーワード！



研修会の最後には、茨城県教育研修センター主査（元県西教育事務所学校教育課長）の海老原治夫先生より「学力の向上は組織力の向上から」の演題でご講話をいただきました。“学校の活力”に視点を当てたお話は、今後の学校運営の指針となりました。

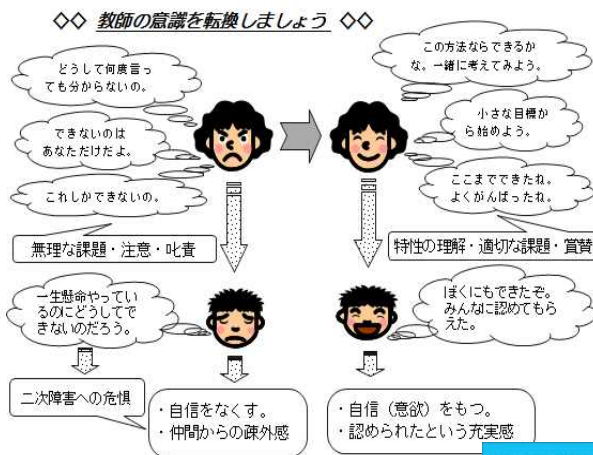
【生徒指導班より】 ～特別支援教育の視点を生かした生徒指導の推進～

学級経営を充実させる上で大切なことは、発達障害やその疑いのある児童生徒を正しく理解することです。他の児童生徒よりも「つまずきやすい」という視点で「集団指導」の中で次のような配慮や取組が必要になります。

- ・情緒の安定を図り、自尊心を育む学級経営
達成感を感じたり、人から褒められたりする経験が多いほど、自尊心や自己肯定感を高めることができます。特に、特別な配慮を必要とする児童生徒に対しては教職員の意識の転換をしていきましょう。（右図参照）
- ・児童生徒理解のための「個別の教育支援計画及び指導計画」の作成と活用
支援が必要な全ての児童生徒に、個別の支援計画や指導計画を活用し、全職員による組織的な支援を行っていきましょう。
- ・校内研修を充実させるための資料

国や県から出されている様々な資料を活用しながら具体的な関わりを工夫していきましょう。

【資料：特別な教育的支援を必要とする子どもへのサポートブック（茨城県教育委員会）】



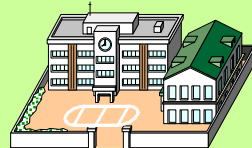
【人事課より】

【教員免許更新の確認】

- 平成30年度教員免許更新講習受講対象者 平成30年10月22日現在
・第9グループ（40人中36人申請済み） 残り4人！
※免許状の記号番号は、記載のとおり記入すること。
例 昭63中1普第0011号 ※ は記入漏れが多いところ

【教職員の交通事故防止及び負傷事故防止】

- 今年度の交通事故件数・・・3件（平成30年10月22日現在）
※余裕をもった通勤や出張先への移動を心がける。
- 今年度の公務災害申請件数・・・3件（平成30年10月22日現在）
※特に部活動指導や学校行事等では、十分な安全確認をする。
※校舎やグラウンド等、学校施設の安全点検をこまめに行う。



結城市立結城中学校では、学校教育目標を「進んで学習し心豊かなたくましい生徒を育てる」とし、日々の教育活動に取り組んでいます。仲見川有紀子教諭は、発声トレーニングや発声練習を通して表現技能を高めること、また、生徒が交流活動を通して、自分の思いや意図を楽曲の中に表現し、主体的に活動することで「学びに向かう力」を育成することを目指し、指導にあたっています。

【実践例】 第3学年 「響きを調和させて歌い合おう」

混声三部合唱『群青』より

目標 歌詞や曲想に合わせて、発声や言葉の発音、身体の使い方を工夫して、個人の技術や歌唱表現を高めることができる。



一手間一工夫のポイント

～自分の思いや意図を表現するための実技実践ポイント～

- ① 2つの交流活動を取り入れた授業の流れ。
- ② 表現技能を高めるための発声トレーニングの工夫。

☆授業の流れ「結城スタイル」

(1) 学習課題の確認

・「何を学ぶのか」「どんなことを身に付けるのか」を確認する。

(2) 自力解決

- ① 発声トレーニング⇒毎時間5分行う。
- ② 発声練習
- ③ ブレスコントロール

(喜怒哀楽の表情表現を含む)

(3) 交流学习①(グループでの意見交換)

・パート別練習で、表現したいポイントを探し、意見を交換し、実際に歌いながら表現の工夫をする。

(4) 交流活動②(比較検討・深い学び)

・全体合唱の中で、発声法や言葉の発音、身体の使い方などを意識して歌唱表現し、技術を上げていく。

(5) 振り返り

・「できた」「分かった」「～したい」を楽譜を見て、音楽的用語や記号と結び付けながら記述していく。



個人の技術や表現力を高めていくためのトレーニング。授業の最初に行うことで、表情も豊かになり、「楽しい気持ち」から「向上したい思い」に変わる。



グループで話し合い、強弱や身体の使い方の確認をする。パートリーダーが中心となり、話し合いをまとめていく。

この時間で表現したい自分の思いや意図を伝え、パートの課題を見つけていく。楽譜に記されている音楽用語や記号と照らし合わせる。



生徒と共に楽曲を仕上げていく。その楽曲の中に個人やパートで高めた技術を生かし、合唱をより豊かに表現していく。



【仲見川教諭から】

生徒自らが主体的に表現していくために必要とされる力は、「学びに向かう力」である。そのためには、交流活動を軸とした授業を展開し、50分という限られた時間の中で、生徒の思考力を持続させていくことを重要視している。さらには、生徒の表現したい思いや意図を楽曲の中に組み込ませていくためには、個々の技術を向上させていくことが大切である。一人一人の技術を上げていくための手立てとして、「発声トレーニング」や「ブレスコントロール」を毎時間行ったことで、自身の声作りやパートの響きや声質まで変化が現れてきた。

今後も、音楽を楽しみながら主体的に表現する力を身に付けていけるような活動を生徒と共に作りあげ、学習の中で得た知識や技能を十分に生かした音楽表現ができるよう支援していきたい。

【総務課より】 博物館紹介③(陶芸編) ～芸術の秋は陶芸美術館に行こう!!～

茨城県陶芸美術館では、企画展「欲しいが見つかる・うつわ展―笠間と益子―」を12月9日(日)まで開催しています。この展覧会は、笠間と益子を活動拠点とする陶芸作家が手がけた、普段使いのうつわを紹介するもので、スタイリッシュなものから可愛らしいものまで、実に様々なスタイルの作品を展示しています。出品作家62名、作品総数800点余りと、見応え十分な内容で、展覧会名にもあるとおり、自分でも「使ってみたい」「飾ってみたい」と思えるうつわが、きっと見つかる展覧会です。



【館井円美 コーヒーセット 2018年】

○料金：一般720(570)円 満70歳以上360(280)円 高大生510(410)円 小中生260(210)円

※()内は20名以上の団体料金。土曜日は高校生以下無料。11月13日(火)県民の日は入場無料。